

---

# 次世代RTGS第1期対応後の決済動向

---



2009年1月27日

日本銀行 決済機構局

# 1. 第1期対応後の取引量

## ○ 1営業日あたりの決済金額・件数

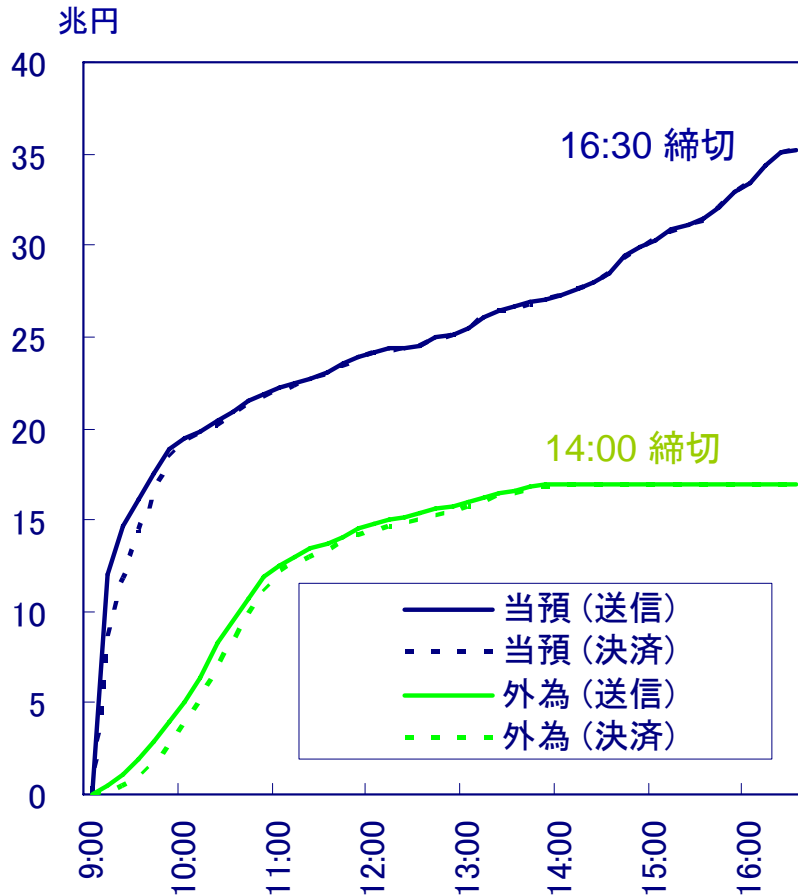
当座勘定口座	主な対象取引	金額 (兆円)	件数 (件)	1件あたり金額 (億円)
通常口	振替社債等DVP 各資金・証券決済システム関連取引 オペ等対日銀取引	34.8	10,734	32.4
ITC口	国債DVP	44.0	11,107	39.6
同時決済口	小計	52.2	35,383	14.8
	当預(市場取引等)	35.3	5,790	61.0
	外国為替円決済取引	16.9	29,593	5.7
合計 (前年同期)		131.1 (120.6)	57,224 (28,626)	22.9 (42.1)

2008年10月14日～12月30日の1営業日平均(以降の計数について同じ)。

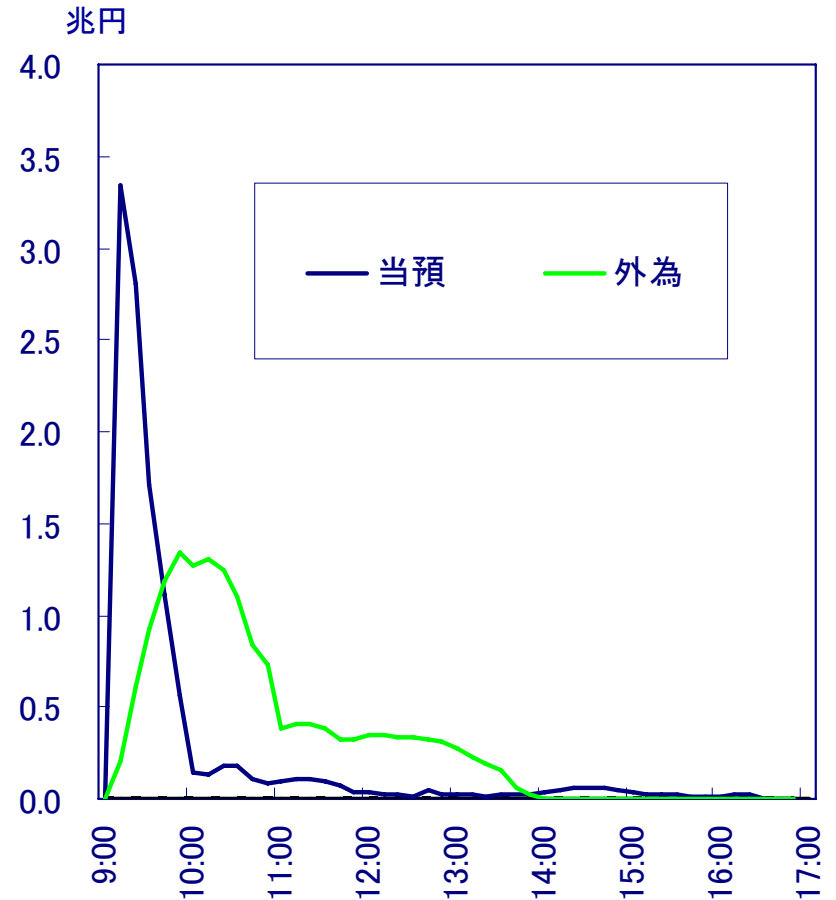
## 2. 第1期対応後の決済進捗

### (1) 決済進捗

【送信および決済金額の日中推移】



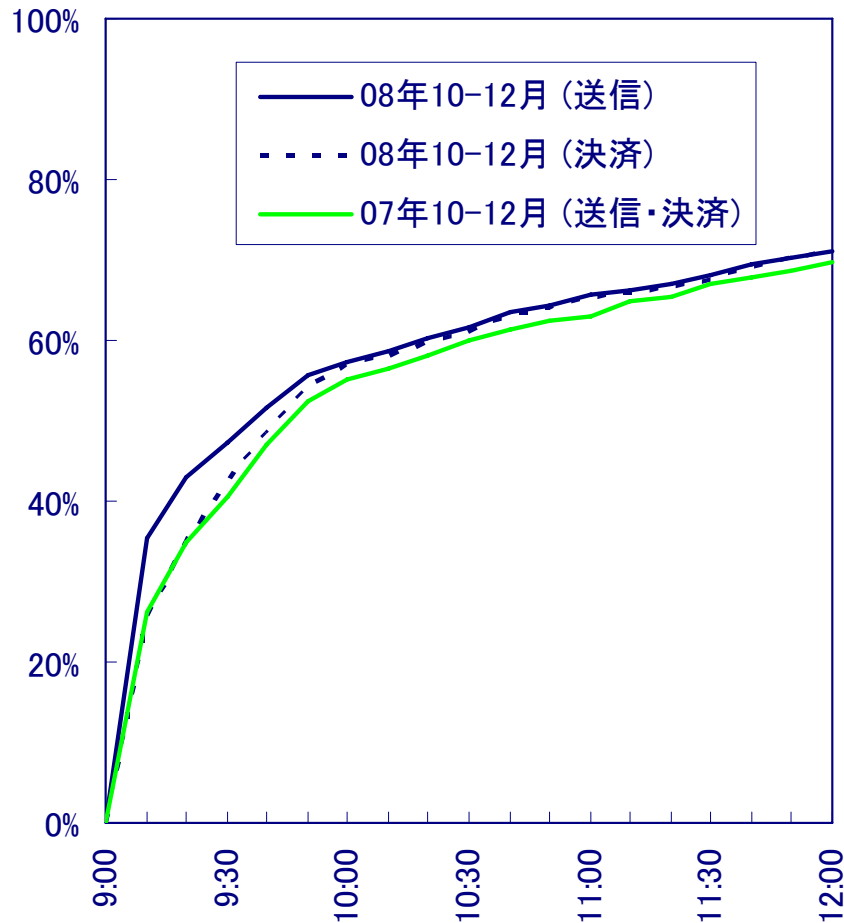
【待機金額の日中推移】



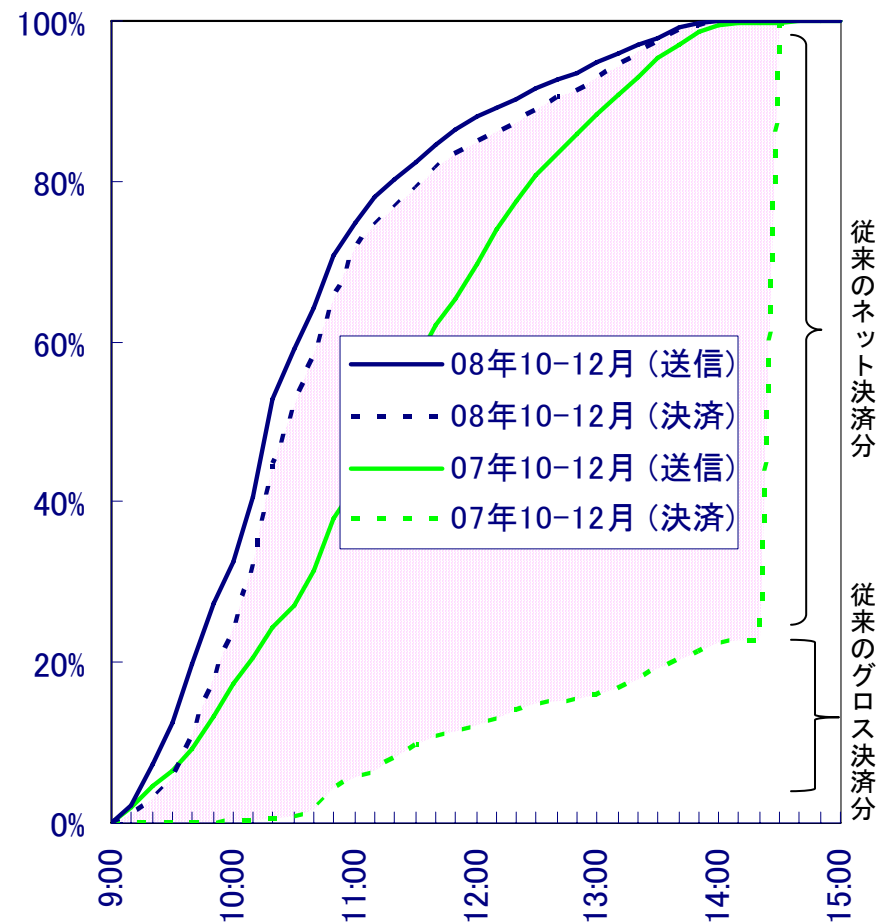
## 2. 第1期対応後の決済進捗

### (2) 次世代RTGS導入前との決済進捗の比較

【当預】



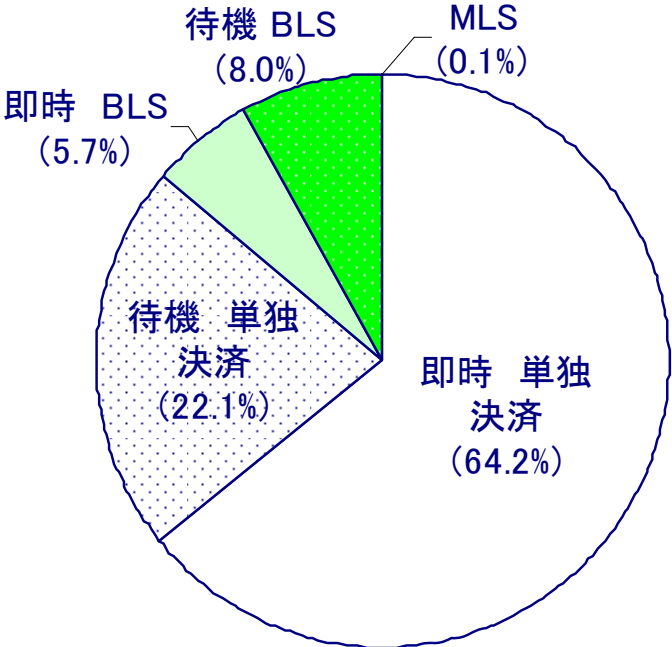
【外為】



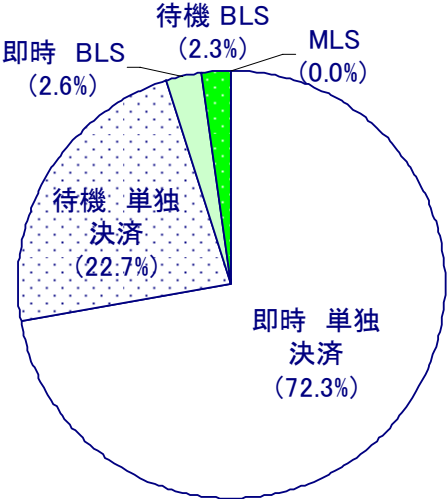
# 3. 流動性節約機能の利用状況

## (1) 処理方式毎の決済金額

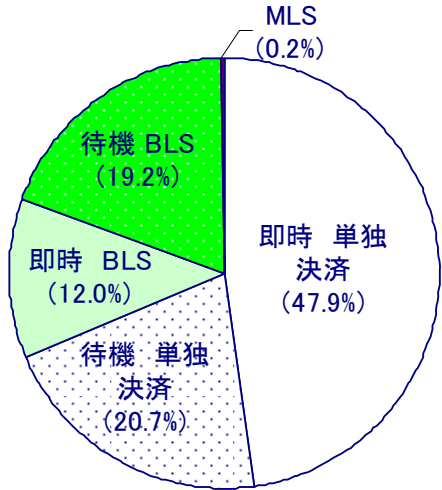
【全体】



【当預】



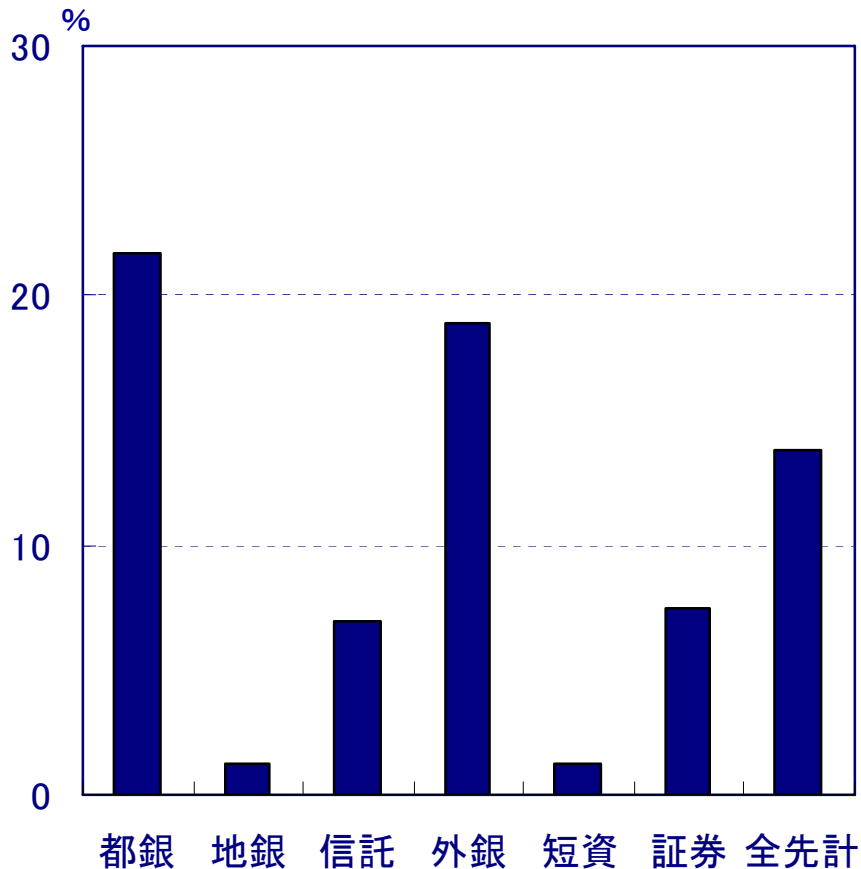
【外為】



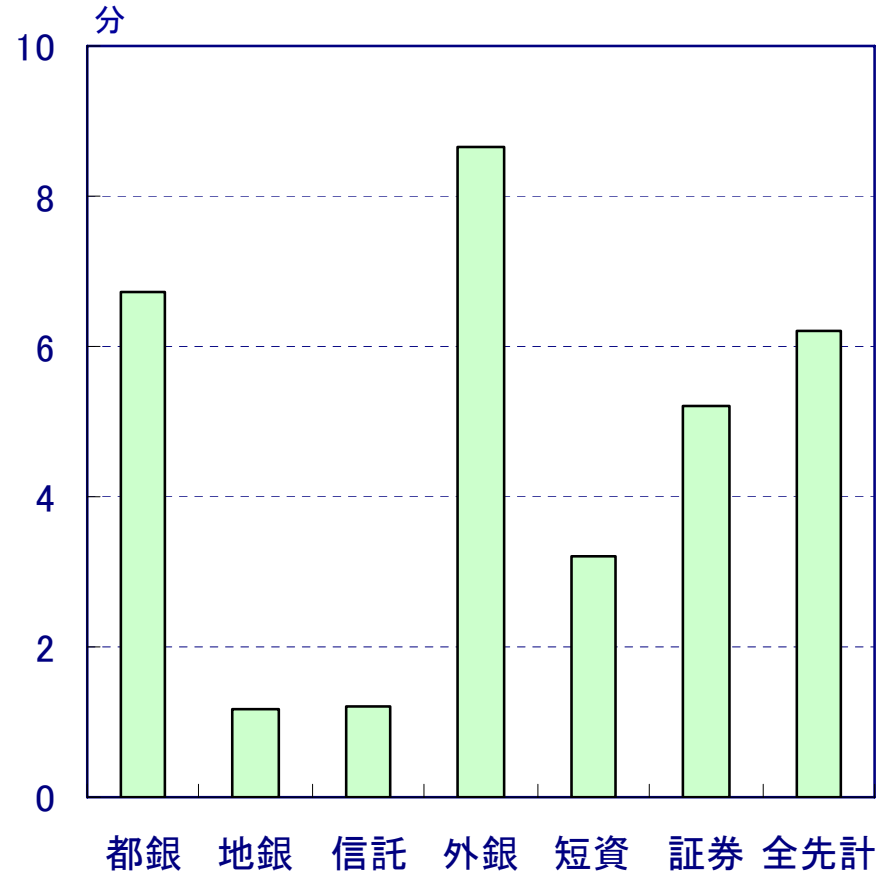
### 3. 流動性節約機能の利用状況

#### (2) 業態別の利用状況

【オフセット比率】



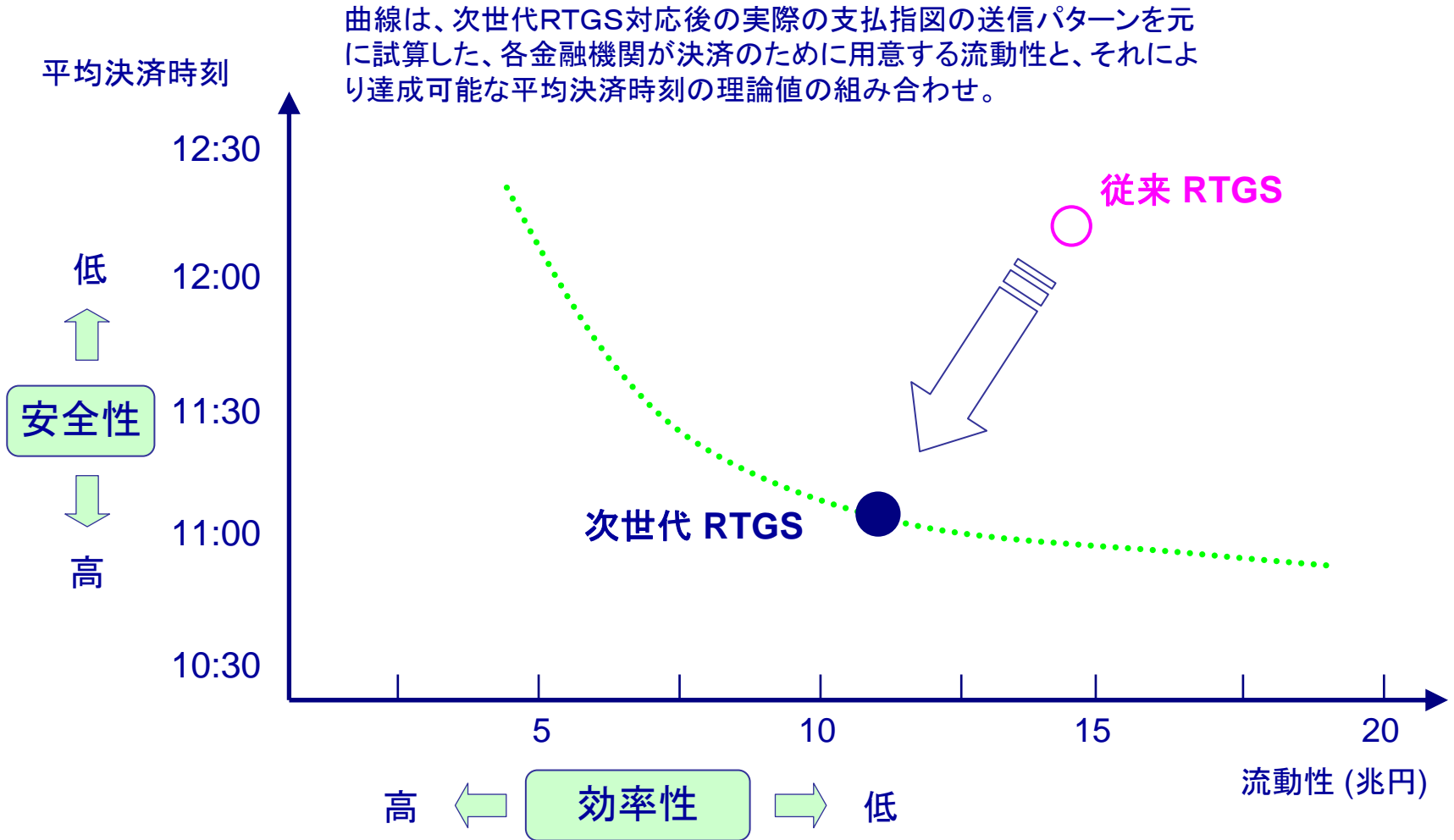
【待機時間】



\* オフセット比率は全仕向取引金額における複数指図同時決済の対象金額の割合

\* 仕向取引の待機時間(金額加重平均)。

## 4. 決済進捗と流動性の関係



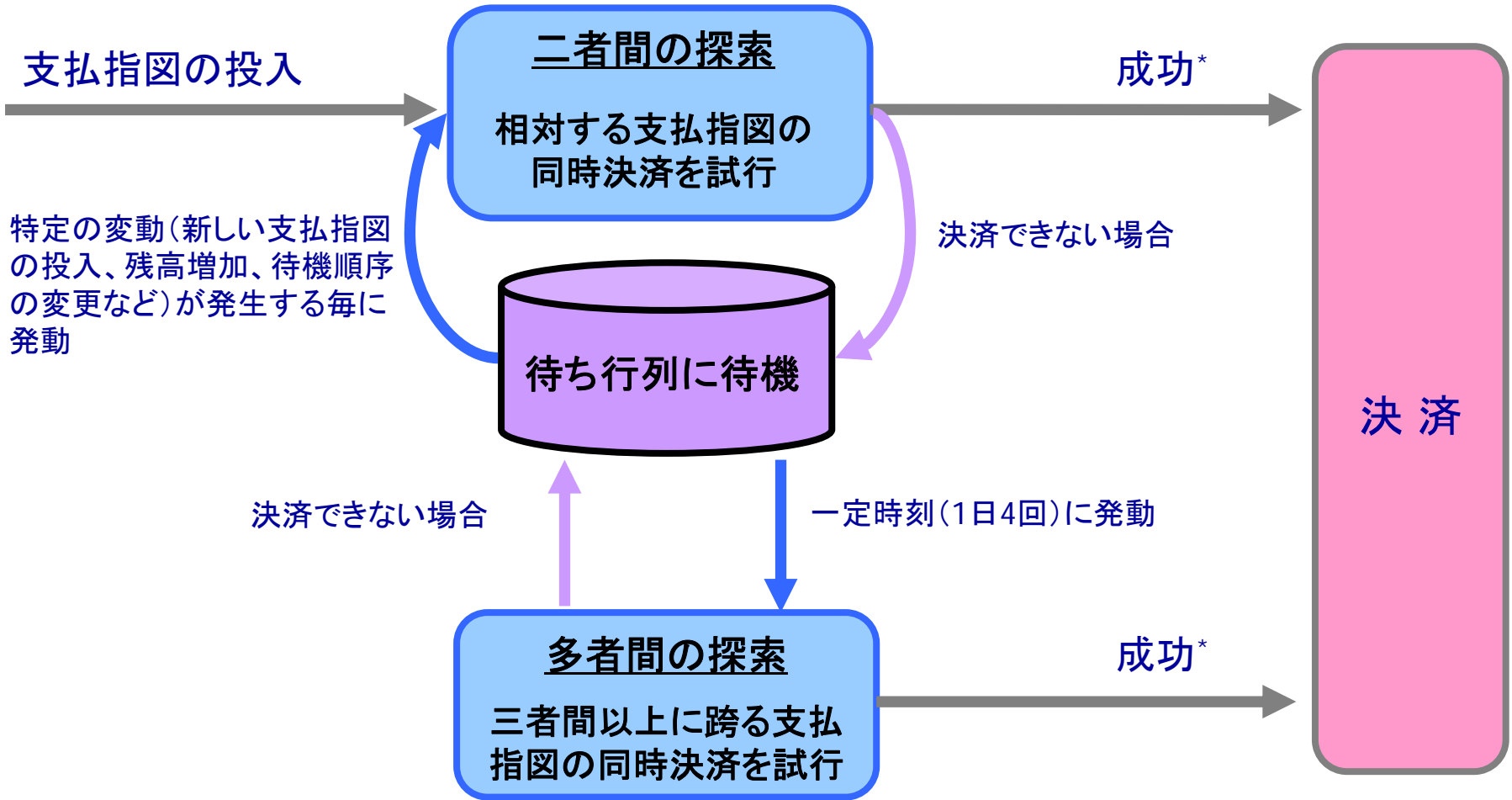
## (参考1) プロジェクトの概要

---

- わが国資金決済システムの安全性と効率性の両面の向上を図ることを目的とした、日銀ネット当預系のプロジェクト。
  - ① 外国為替円決済制度(外為円システム)、全国銀行内国為替制度(全銀システム)を通じて時点ネット決済で処理されている大口資金取引を、日銀当座預金上でRTGS処理。
    - ⇒ 大口資金決済を原則として全てRTGS化し、システミック・リスクを削減。
  - ② 日銀当預に「同時決済口」を新たに設け、流動性節約機能(待ち行列機能、複数指図同時決済機能)を備えたRTGS処理を行う。
    - ⇒ 個別金融機関において決済に必要な流動性(当座預金および差入担保)を節約。決済システム全体としても、より少ない流動性でより迅速な決済進捗を実現。
- 第1期、第2期の2段階で対応。
  - 第1期:「外為円決済取引の完全RTGS化」と「流動性節約機能の導入」(昨年10月14日に稼動開始)
  - 第2期:「大口内為取引のRTGS化」(全銀システムの次期更改時期に合わせ2011年11月に導入予定)



# (参考2) 流動性節約機能付きRTGS処理の流れ



\* 結果的に、1本の支払指図を単独で即時決済する場合も含む。